

# 「地域メンバーとしてのMICE施設の取り組み」 前編：民営MICE施設 (ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター)

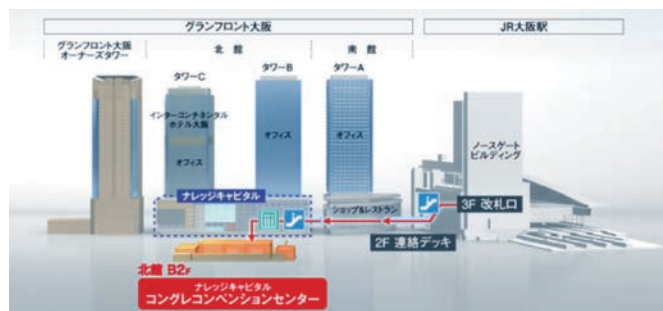


MICE施設は集客・交流・情報発信を促進して、さらに地域を象徴するランドマークとして地域全体の価値を高めます。今月号から2回にわたり「地域メンバーとしてのMICE施設の取り組み」と題して、前編では民営MICE施設(大阪)、後編では公的MICE施設(名古屋)を取り上げます。

いずれも(株)コングレが運営するMICE施設ですが、その立地や運営形態によって、地域との取り組みは少し違ったものになります。今月号ではJR大阪駅に直結する民営MICE施設「ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター」(以下コングレコンベンションセンター)の取り組みについてご紹介します。

## ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター

コングレコンベンションセンターが入居しているグランフロント大阪のナレッジキャピタルは、「企業人、研究者、クリエイター、そして一般生活者などさまざまな人たちが行き交い、それぞれの知を結び合わせて新しい価値を生み出す“知的創造・交流の場”(公式HPより)」をコンセプトとしており、コンベンションセンターは、その発信機能の一翼を担っています。



コングレコンベンションセンターは、JR大阪駅に直結し、1,700㎡のメインホールをはじめ、複数の会議室を有しています。その抜群の立地と「場」を地元をはじめとする多くの方々に提供し、その情報発信をサポートしています。

ゼネラルマネージャー・小堀英昭さんのもとには、企業や自治体、大学など、さまざまな人からひっきりなしに電話がかかってきます。2台目のスマートフォンでは、あらかじめ設定したハッシュタグ(#コングレコンベンションセンター)のSNS拡散数をチェックするのが習慣になっているとか。



小堀英昭さん

2013年の開業から6年。コングレの、地域での取り組みを振り返ってみたいと思います。

## 初の協力事業、大阪のイノベーションを推進

国際イノベーション会議 Hack Osakaは、「オープンイノベーションシティ」を掲げる大阪市が年に一度開催する、若手スタートアップを支援するイベントです。起業家、投資家、大企業、学生など様々なプレイヤーがエコシステムの主役と

して参画し、有機的につながり、次々とイノベーションを巻き起こしていくHack Osaka Movementを実現するためのヒントを、世界の先行事例から学びます。



また、海外で活躍する若手起業家や大阪イノベーションハブで生まれた起業家を紹介し、主に若者をターゲットに起業家マインドを醸成するとともに、世界にイノベーションのネットワークを広げることをめざします。

コングレはこの事業の中心となっている都市活力研究所に協力し、この事業をサポートしています。コングレコンベンションセンターにとっては初の本格的な協力事業であり、これがきっかけで他の事業への広がりができました。

## 女性起業家との連携の広がり

女性起業家応援プロジェクトは、関西2府5県で活動する女性起業家と、起業を考える女性や女子大学生、2019年1月に開催されたビジネスプラン発表会出場を目指す女性起業家、出場後様々なフェーズにいる女性起業家(アンバサダー)などの成長をサポートし、我が国における女性活躍推進をリードしています。

コングレコンベンションセンターは主催団体への協力という形で関与しましたが、これをきっかけにここで選ばれた女性起業家がコングレの主催イベントに参画することにつながり、さらなる相互連携が生まれました。

## さらに広範囲なエリアに活動が拡大

スポーツ庁が推進する「Fun+Walk Project」は、グルメや仕事、ショッピングなどの日常生活に“歩く”をプラスして、健康増進を目指すプロジェクトです。歩きやすい服装を推奨するキャンペーンなどが行われています。この一環としてサンケイリビング新聞社が主催した「WE LOVE うめだフェスティバル」



イバル」は梅田全体をフィールドにしたイベントで、コングレにとっては、グランフロント大阪以外の施設との連携が実現し、活動エリア拡大のきっかけとなる事業となりました。

### 集客エンジンとしての主催イベント

昨年8月にコングレが日本スポーツ産業学会と共に主催したイベント「スポーツビジネスジャパン2018」は、大阪商工会議所やスポーツハブKANSAIなどに特別協力いただき、スポーツ関係者や地元大阪の経済界の支援のもと開催されました。

小堀さんは振り返ります。「スポーツビジネスジャパン2018は地元経済界のさまざまなプレイヤーとつながる機会となり、大阪市にもご協力いただいて、オール大阪のサポートで開催できました。地域にコンベンションセンターを構えて展示会やイベントを開催することは、その集客効果による地域への経済波及効果や産業へのインパクトをもたらすことを実感しました。」

### 265名の学生が課題解決に挑戦！

さらに、スポーツビジネスジャパン2018に来場した大阪成蹊大学の教員の方とのご縁は、産学連携プロジェクトへと発展しました。コングレが運営に携わる文化施設やMICE施設が抱える課題に対する課題解決型（PBL）授業として、学生が企画を立案し、プレゼンテーションを行うというものです。今年4月からプロジェクトがスタートしており、最終プレゼンテーションは、7月17日（水）大阪成蹊大学で実施予定です。

### 大阪成蹊大学との産学連携プロジェクト

**内容：**コングレが運営に携わる施設が抱える課題に対し、課題解決型（PBL）授業として、約3か月のプロジェクト期間中に学生が企画を立案し、プレゼンテーションを行う

**対象者：**大阪成蹊大学 マネジメント学部 265名

**課題A：**外国人観光客の集客企画（京都水族館）

外国人観光客をもっと取り込む京都水族館のセールス方法を提案してほしい。

**課題B：**年間パスポートを普及させるための企画

（京都水族館）

京都水族館では、集客施策の1つとして年間パスポートを販売しているが、販売数、入館者数を増やす施策を提案してほしい。

**課題C：**売店・カフェの目玉企画（神戸青少年科学館）

ミュージアムショップ、カフェなど、展示やイベント以外の切り口で来館者数を増やす施策を提案してほしい。

**課題D：**スポーツ文化の裾野を広げるイベント企画

（コングレコンベンションセンター）

B to Cの観点から、スポーツが身近に感じられ、子どもたちの将来の夢につながるイベントの企画をしてほしい。

### 大阪成蹊大学（大阪市東淀川区／学長 武蔵野 實）

2003年に開学したマネジメント学部、芸術学部、教育学部の3学部を擁する大学。近年、抜本的な教育改革を進めており、この10年間で、志願者数は約5倍に増加している。特にキャリア教育や課題解決型学修に力をいれ、大手ホテル、総合製造メーカー、鉄道事業者、自治体などと連携した課題解決型

学修を取り入れ、社会で活躍する人材を育成している。2020年には、マネジメント学部を経営学部に変更し、「公共政策コース」を新設する予定で、近年発展を続けている。

こうしたプロジェクトを通じてMICEへの関心を持った学生たちには、どのような働き方があるのでしょうか。実際に、コングレコンベンションセンターの運営に関わっている人をご紹介します。

### 施設運営という仕事の魅力

清水佳奈子さんはもともと社労士事務所で給与計算などを担当していましたが、コングレが東京で自社施設を立ち上げた時に入社しました。それまで総務一辺倒だった清水さんですが、施設の開業にあたっては、受付から設営まで、幅広い仕事を3年間にわたり担当しました。



清水佳奈子さん

書類ではなく人を相手にする仕事の面白さに魅せられた清水さんは、地元関西に戻り、現在はコングレコンベンションセンターで勤務しています。「イベントを作り上げる感覚が好きなのだとわかりました。海外の野外イベントなどにも興味があります。いつか、趣味のロードバイクをテーマにした自主事業を担当してみたいです。」

### MICE施設の持つ使命

最後に、コングレで施設事業を統括する安井美代子取締役役にお話を伺いました。

「MICE施設は都市のシンボルであり、そこに人が集まることで経済効果などのさまざまな効果をもたらします。地域全体の価値を高めるという使命を持っているのです。コングレでは現在、80のMICE施設および文化観光施設の管理・運営を担当していますが、効率重視で稼働さえすればいいということではなく、責任ある地域メンバーとして責任ある役割を担い、価値をクリエイティブできるような取り組みを目指しています。」



コングレ・安井美代子取締役

後編では、名古屋国際会議場や名古屋国際展示場（ポートメッセなごや）など、名古屋市内の複数の公的MICE施設をコングレが運営することによって生み出されている価値や連携事例、自主事業の広がりについてご紹介いたします。



### 西本 恵子 Keiko Nishimoto, CMP

（一社）MICE総研（コングレグループ）上席研究員。京都大学経営管理大学院博士後期課程（D3）で「国際会議・MICEを通じた開催都市の価値創造モデル」について研究している。京都大学を象徴する百周年時計台ホールもコングレが管理していることを知り、社内割引はないのかな？などと考えるうちに論文提出時期が刻々と迫っている。